

「金持ちとラザロのたとえ」

1. はじめに

- ・今日の箇所は律法の時代と福音の時代の「逆転」を語っている。価値観と人間存在。
- ・私たちクリスチャンの約束は何か。

2. 本文

* 14 ~ 18 節；律法の時代から福音の時代になったとイエスはいう。

- ・ 14 節；金銭を好むパリサイ人たちはイエスをあざ笑っていた。(ex; 神の祝福の結果は富である)
- ・ 15 節；「あなたがたは、人々の前で自分を正しいとするが、神はあなたがたの心をご存じです。」
- ・ 16 節；律法と預言者はヨハネまでです。それ以来、神の国の福音が宣べ伝えられている。
 - ・ ガラテヤ 3 : 23 ~ 25 「律法はキリストに導く養育係となりました。」
 - ・ II コリント 6 : 2 「見よ、今は恵みの時、今は救いの日です。」

・ 18 節；結婚のこと

「だれでも妻を離縁して別の女と結婚する者は、姦淫を犯すことになり、夫から離縁された女と結婚する者も、姦淫を犯すことになります。」

- ・ 律法の時代の理解とイエス（福音の時代）の話はどう違うか。
- ・ 結婚は神とイスラエルとの契約の象徴である。

* 19 ~ 31 節；金持ちとラザロのたとえ話

・ 19 ~ 26 節

- ・ 25 節；おまえは生きている間、良いものを受け、ラザロは生きている間、悪いものを受けた。
- ・ 26 節；そればかりか、私たちとおまえたちの間には大きな淵がある。
- ・ 27 ~ 31 節；金持ちの願い
 - ・ 27 節；ラザロを私の家族に送ってください。
 - ・ 31 節；モーセと預言者に耳を傾けないなら、彼らは聞き入れはしない。

3. まとめ

・ 信仰者として生きる約束は何か。

・ 救い。

・ ペリピ 3 : 11 ~ 12

何とかして死者の中からの復活に達したいのです。私は、すでに得たのでもなく、すでに完全にされているのでもありません。ただ捕らえようとして追及しているのです。そして、そしてそれを得るようと、キリスト・イエスが私を捕えてくださったのです。